

集落営農における加工用バレイシヨの導入

東近江地域振興局農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

安土町西老蘇営農組合では、生産調整の拡大を想定し、麦・大豆より収益の上る作物として、丹波黒大豆や小豆の栽培に取り組んできた。

今年度は新たに全農滋賀県本部が県内JAを通じて推進しているバレイシヨ1haの契約栽培にチャレンジした。販売先の県内製菓メーカーは県産のバレイシヨのポテトチップを県内販売し、原料と製品の輸送距離を大幅に短縮することで二酸化炭素排出量の削減に取り組んでいる。

【普及活動の成果】

集落営農で継続的に取り組むためには、省力化と低コスト化が課題であることから、定植機と収穫機を利用した省力栽培体系の検討を行った。

品種はポテトチップ加工用の「トヨシロ」を用いた。定植には牽引式の定植機を用い、防除は乗用型多目的作業機（ビークル）、中耕培土は大豆に使用している中耕ローターを使用した。収穫作業には大型収穫機（ハーベスタ）をレンタルした。

収量は3.9t/10aと当初予想よりもかなり多く、粗収入は19.5万円、のべ労働時間は約52時間/10aで、減価償却費を除く経費は12万円余りとなった。

バレイシヨ栽培の初年度ということもあり作業時間は当初の想定よりも増加したが、機械化省力栽培のめどは立った。中耕時期が水稲田植え作業と競合すること、収穫期が梅雨にあたり作業適期幅が狭く短期間に多数の労働力確保が必要となるため、大規模な個人農家での導入には難があるが、集中的な労働力の確保が可能と思われる集落営農では転作体系の一作物として組み入れることは可能であると考えられた。

平成21年度は、周辺集落も含め2.4haの栽培が行われる予定である。



定植作業 2008/3/8



大型収穫機による収穫作業 2008/07/02